

最新の幼児スポーツ

— 保育現場でのティーボールあそびの実際 —

片岡正幸

(ピース・スポーツクラブ 代表)

1) 幼児へのティーボールあそびの指導のポイント

幼児へのティーボールあそびの指導は、簡単な内容で、誰もができる運動内容の導入から始めていき、徐々に発展的な運動を行うことが良いでしょう。個人差はあるものの、回を重ねるうちに技術が向上し、できることが増えていきます。試合では、ボールが飛んでこなかったり、打順を待つことで、運動量が少なくなるときもみられます。しかし、仲間の姿を見て応援することや、友だちのプレーを見ていっしょに喜ぶこと等、仲間を意識していくことの大切さに気づくようになります。運動量は、自分で打ったボールを捕りにいくことや、ペースランニングをすることで確保し、また、努めてボールを打つ回数や、ボールに触る回数を意識的に増やすことで、補うことができます。

2) 幼児への指導6つのポイント

- (1) すべきことの指示をするだけでなく、子どもたちに選択肢やヒント、質問を投げかけて、考える機会を与える。
- (2) 運動技能の向上のためには、幼児でも理解できる言葉を用いて指導する。
- (3) 平易な課題から、発展的な課題へ高めていき、子どもたちに成功体験を通して、自信をもたせていく。
- (4) 人と関わる能力や、社会性を育むためには、子どもたちの様子や表情を観察して、適切なタイミングで誉める・叱る・応援する等の言葉がけをする。
- (5) 幼児の集中できる時間は、短いため、できるだけ多くの運動を行い、「次に何をやるのだらう」という期待感を常にもたせる。
- (6) 毎回、子どもたちの健康と安全に配慮して、ケガのないように、指導を行う。

3) プログラムの内容

(1) ウォーミングアップ



ランニング



体操

活動紹介



ストレッチ



ダッシュ

(2) 守備



キャッチボール



遠投1



遠投2



ボールキャッチ1



ボールキャッチ2



ボールキャッチ3

活動紹介

(3) バッティング



バッティング練習 1



バッティング練習 2

(4) ボールコレクターの試合



試合 1



試合 2



試合 3



試合 4

(5) 室内での活動



室内 1



室内 2

4) プログラムの作成と内容

幼児ティーボールあそびのプログラムにあたっては、まず、ティーボールあそびを構成する運動要素を分析し、次に、それぞれの要素を育成するための最終目標をきめます。そして、多くの幼児ができる運動から始めて、徐々に難易度を上げ、最後に目標到達できるように、プログラムを作成します。

ティーボールあそびを構成要素として、

- (1) 打つ
- (2) 走る
- (3) 捕る
- (4) 投げる
- (5) ティーボールあそび実践(試合)

を(1)～(5)の順に指導実践を行う際、最初に打つことを実施することは、幼児にとって、最も楽しい動きだからです。最初に楽しい動作から始め、最後に難しい運動へと進めます。

- (1)「打つ」は、ボールを前に飛ばすことを目標とし、最初は、バレーボールサイズの大きいボールを使用しました。幼児が、少しでも打ちやすいことと、打ったときの爽快感を味わわせるためです。
- (2)「走る」は、ベースに走りこむことを目標に、最初は、カラーコーン間をダッシュします。慣れてきたら、カラーコーンをベースに変えることによって、ベースに走りこめることが、容易になります。また、スキップ・サイドステップ・両足ジャンプ等の動作を取り入れ、脚力の向上を図ります。
- (3)「捕る」は、打ったボールを手で捕れることを目標として、最初は、バレーボールサイズの大きいボールを用いて、投げ上げたり、地面についたりしたボールを胸やお腹を使わず、手で捕れるよう指導します。そうすることにより、小さいボールの手での捕球へと発展させることができます。
- (4)「投げる」は、ボールを投げるときの軸足となる足で、バランスよく立てるように、片足立ちを行って、バランス感覚を身につけつづけます。そのことによって、ボール投げをした際の足の動きが、スムーズにできます。次に、ボール投げを行うことで、肩・肘・手首・指先等、の使い方が、身につくようになります。
- (5)「ティーボールあそび実践」では、ティーボールあそびを行い、仲間同士のチームワークや練習で培った運動を実践していきます。